



# ゆづりは

## 堺市立図書館だより

第9巻 第1号 (通巻31号)  
 発行日 平成26年6月10日  
 編集・発行 堺市立中央図書館  
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1  
 電話 072(244)3811  
 Fax 072(244)3321  
 URL <http://www.lib-sakai.jp/>

### 子ども読書の日記念学校訪問 ～本が大好き堺っ子～

4月23日は「子ども読書の日」。  
 この日から5月12日までの約3週間は「こどもの読書週間」です。

図書館では、子どもの読書活動について関心と理解を深め、子どもの主体的・意欲的な学習活動や読書活動を支援・推進するため、学校と連携を取り、ボランティアの協力をいただいて、この期間を中心に各区の小中学校へ訪問を行っています。(平成14年度から実施し、今までに訪問した学校は、のべ120校を超えました。)

小学校ではおはなし会を、中学校ではブックトークを行っています。教室では、弾けるような笑顔を見せてくれる小学生、本の主人公と自分を重ね合わせて真剣に聞き入る中学生たちに出会えました。いろいろな本を紹介することで、こどもたちが興味・関心の幅を広げ、より豊かに成長することを願っています。



4月23日は「子ども読書の日」  
 ↑  
 「子ども読書の日」  
 ポスター



↑  
 「こどもの読書週間」  
 ポスター



↑  
 向丘小学校訪問の様子



#### ご協力いただいたボランティア 団体をご紹介<<平成25年度>>

- ・おはなしどんぐり
- ・おはなしウーフの会
- ・おはなしかご
- ・おはなしはなたばの会

#### 目次

子ども読書の日記念学校訪問  
 ～本が大好き堺っ子～ … 1

新緑の中、堺市図書館まつりを開催 … 1

図書館の仕事 蔵書点検 … 2

シリーズ堺の〇〇  
 堺の水道・旧天王貯水池 … 2

堺かるた いろはの「や」… 3

この本で解決！  
 ～昔からの疑問を解決～ … 3

司書のイチ押し！  
 『「郷土研究 上方』 … 4

堺市立図書館電話番号一覧… 4

# ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに  
 ゆづりゆづりて 譲り葉の  
 ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。



### 新緑の中、 堺市図書館まつりを開催



5月11日(日)、まぶしい新緑のなか、堺市図書館まつりを、図書館と堺市図書館まつり実行委員会の共催で開催しました。



↑あそびのひろば



↑図書館探検(書庫)



↑人形劇  
 (三枚のお札、泣いた赤鬼)

この日の参加者は、のべ1,169人。日ごろは静かな図書館に子どもたちの歓声が響く楽しい1日でした。

当日は、たくさんの堺市図書館まつり実行委員会の皆さまにご協力いただきました。ボランティアの皆さま、ご協力ありがとうございました。

## 図書館の仕事

## 蔵書点検

## どうして必要? どんなことしてる?

資料(点検)整理期間にともなう休館について、どうして休館しているのか疑問に思う方も多いと思います。そこで資料(点検)整理期間に行う蔵書点検と呼ばれる作業をご説明します。

蔵書点検は、図書館で所蔵している資料のバーコードを1冊1冊、携帯型端末機を使って読み取り、「資料がきちんと所定の場所にあるか」「行方不明のものがないか」等を確認するために行います。

閲覧や貸出・返却等で棚にある資料が移動すると確認作業に支障があるので、館内のすべての書架を漏れなく調べるために必要な期間を休館

としています。

古くなるなどしてあまり利用がされなくなった資料を書庫に移動させたり、書架の整理や棚の移動、施設や設備の補修工事などもこの期間に行い、魅力的な図書館になるよう整備を行います。

資料(点検)整理期間の詳しい日程は、図書館ホームページでお知らせしています。利用者の皆さまには、ご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。



## 資料(点検)整理期間にともなう

## 休館のお知らせ&lt;&lt;6月&gt;&gt;

初芝分館	平成26年6月11・12日
青少年センター図書室	平成26年6月19日
南図書館	平成26年6月24～27日

## シリーズ 堺の〇〇

## 堺の水道・旧天王貯水池

中三国ヶ丘町の閑静な住宅街の一角に凱旋門を思わせるれんが造りの建物があります。これは、かつて上水道施設として利用されていた旧天王貯水池の点検用通路に通じる入口です。

旧天王貯水池は堺の上水道施設として浅香山浄水場とともに明治43年に建設され、この年の4月1日に、全国で18番目の近代水道として給水を開始しました。

凱旋門風の建物の内部には通路をはさんで10室の貯水槽が設けられています。貯水槽はアーチ型の曲面天井で覆われており、その天井の上には直射日光や雑菌の繁殖、埃の侵入を避けるため盛り土がされています。約6万立方尺(1670 m<sup>3</sup>)の水(6万人に対して8時間分の水の量)を貯水することができました。

昭和2年に水圧が低い当時の榎町、田出井町、三国ヶ丘町へ安定した給水をするため、旧天王貯水池の敷地内に高地配水塔が建設されました。ノ

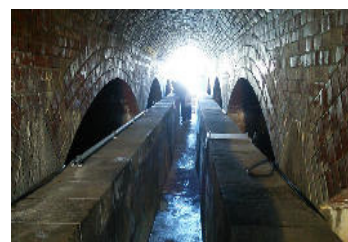
昭和20年の空襲で、ポンプ場や公舎が破壊されましたが、戦後の都市計画で復旧し昭和37年まで使用されました。

平成13年には堺市の上水道の発祥を記す貴重な遺構であることが評価され、国の登録有形文化財に指定されました。

内部は非公開ですが、春と秋の年に2回、けやき通りまちづくりの会主催で一般公開をおこなっています。



↑旧天王貯水池(点検用通路入口)



↑旧天王貯水池(貯水槽)

## 参考文献

『堺市史』続第3巻 堺市/編集・発行

『堺市水道百年史』堺市上下水道局/編集・発行

『けやき通り物語』けやき通りまちづくりの会/著・発行

「読売新聞」2001年3月20日(朝刊)

## 堺かるた - いろはの「や」 「やぐらもえ 一万戸焼く 応永の乱」

応永6年（1399年）、大内義弘は東が湿潤地帯で西は海という堺の地の利を生かして戦うため、井楼（物見櫓）を48と矢を射るための櫓を1,700もつくり幕府軍を迎え撃ちました。

同年11月29日の戦いでは幕府軍を撃退しますが、12月21日の戦いで幕府軍により櫓に火が放たれ、それが1万戸の民家にも広がり、大内義弘もこの日戦死しました。

この戦いを「応永の乱」といい、このことは『堺記』や『応永記』などに堺が初めて焦土と化した記録として伝えられています。



### 参考文献

- 『むかしの堺』 別所やそじ・尼見清市／共著 堺児童文化振興会
- 『堺のあゆみ』 尼見清市／文 堺商工会議所
- 『堺の歴史』 関英夫／著 山川出版社
- 『堺記』 関西大学中世文学研究会／編 和泉書院

## この本で解決！ ～昔からの疑問を解決～

昔から気になっていることや疑問に思っていたことを記憶を頼りに調べることは、意外に難しいものです。今回は、司書がお手伝いして、昔からの疑問が解決できた事例をご紹介します。

**Q.**昔「にいちてんさくのご」という言葉を聞いた。そろばんがらみの言葉だったと思うが、その意味を知りたい。

**A.**『故事俗信ことわざ大辞典 第2版』（北村孝一/監修、小学館）のP.1022に、「珠算での割り算の九九の一つ。一を二で割るとき、そろばんの上段の天の珠、すなわち五珠を一つおろすこと」とあります。

『新・和算入門』（佐藤健一/著、研成社）では、 $10 \div 2 = 5$ を「<sup>にいちてんさくのご</sup>二一天作五」と言い、「二で一を割ると五になる」ことを言い表しているとP.21に記載されています。そろばんを計算道具としているため、桁については考慮していません。つまり1も10も100も同じ扱いになります。

『再発見 江戸の数学』（桐山光引/著、日刊工業新聞社）によると、そろばんでの割り算を実行するときには、「九歸除」や「八算」と呼ばれる、掛

け算の九九と同様のものが用いられていました。

1930年以前に生まれた人は、小学校で八算を習い、実際に使っていたそうです。

**Q.**先月の卒業50年の同窓会で讃美歌の「神ともにいまして」を合唱したが、この歌の正しい題名、正しい歌詞、作詞者（訳詩者）を知りたい。

**A.**『讃美歌21 略解』（日本基督教団讃美歌委員会/編、日本基督教団出版局）のP.291～P.292「神ともにいまして」に、原作者ジェルマイヤ・E・ランキン、作曲者ウィリアム・G・トマーだと記載があります。この讃美歌を作る際に、ランキンは2人の作曲家に新曲を依頼し、アマチュア音楽家のトマーの曲を採用したそうです。また、「日本ではとりわけ送別の歌としてうたわれています」との記述があり、題名・歌詞等の変遷についても説明があります。

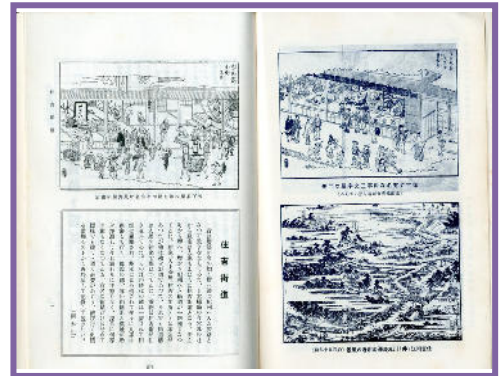
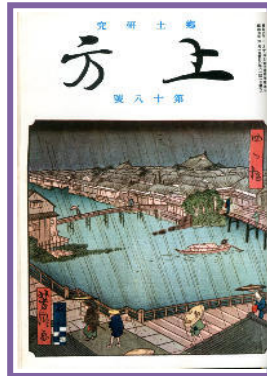
『讃美歌21』（日本基督教団讃美歌委員会/編、日本基督教団出版局）には、楽譜・歌詞・作詞者・作曲者が載っています。巻頭索引があるので、歌いだしの「かみともにいまして」から引くことができます。日本では讃美歌が編集された時期によって訳が違っているので、歌詞の違いを比べてみると、おもしろいかもしれません。



司書のイチ押し!

「郷土研究 上方」 上方郷土研究会・編集 創元社

『郷土研究 上方』は、昭和6年(1931)に創刊され、昭和19年(1944)まで151号が発行された大阪の月刊郷土雑誌です。大阪の風俗、民俗、文芸、演芸、芸術の記録のみならず、周辺の摂津、河内、和泉や京、大和のことも書かれています。堺については、第18号に主に記述があります。



この雑誌を編集した人物は南木芳太郎で、勤め人である傍ら古書の蒐集を行いました。その膨大かつ貴重な蔵書は、「南木文庫」として、当時幅広くいろいろな人や多くの学者に利用されたそうです。(現在、これらの蔵書は大阪城天守閣に『南木コレクション』として残されています)

大正15年(1926)、『浪華叢書』刊行に南木が関わったことを機に『上方』を発行することになりました。当時「大大阪」といわれ大阪が発展する一方で、古くから大阪に住んでいる人は郊外に移っていき、滅びゆく「大阪文化」を記録にとどめていきたいという一念が発行のきっかけでした。

また、郷土を愛するがゆえに雑誌の発行以外にも、史跡見学や演芸会などのイベントも毎月行っていました。

大阪の郷土史研究の雑誌は地味でなかなか売れず、経営的には困難でした。その困難な状況を支えたのは、「南木文庫」に世話になった人たちで

家族ぐるみで出版に関わり、総出で校正、写真の調整、発送を行っていたそうです。戦争による用紙不足やインフレによる資金不足が生じた際も、「南木文庫」を売りなんとか発刊を続けましたが、終戦の前年、南木が健康を書しついに休刊となりました。

『郷土研究 上方』は、昭和44年(1969)新和出版社より全巻が復刻され、中央図書館に所蔵しています。(O)



参考文献

『大阪人』2004年7月号～12月号  
近代大阪の人物誌「南木芳太郎とその周辺」  
①～⑥ 古川武志／著 大阪都市協会  
『大阪市史史料』第74輯、第75輯  
「南木芳太郎日記 1、2」大阪市史編纂所  
『上方風雅信』肥田皓三／著 人文書院

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	青少年センター図書室	228-6331
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	ホームページ URL	http://www.lib-sakai.jp
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111	携帯ホームページ URL	http://www.lib-sakai.jp/m/

